

音羽山おと は やま

〔又牛尾山ともいふ〕追分おひわけより東南の山なり。

音羽里おとはのさと小山村やまむらは道のほとりにありて一流の山川あり、是を音羽おとは

川がはといふ。水上は山科やましな音羽瀧おとはのたきにして、古より和歌多し、「むかし延徳の頃、高水寺殿かうすゐるじ三品花溪といふ官婦の山荘あり、

今西本願寺ほんぐわんじの別荘是なり〕此流れ右に見左に傍ふて、牛尾観音堂に登る道に安履石あり。〔行叡居士ぎやうゑいこしの沓此石上にあり

しといふ〕弘法腰掛石、鮎尻瀧、調子瀧、音羽瀧は路の右にあり、仙人窟、五丈巖は左の岨を登ること三四丁にあり、

蛇が淵は險路の左にありて、経石は其右にあり。

新後撰 音羽山花咲ぬらし逢坂の関のこなたに匂ふ春風

宗 尊 親 王

続後拾 夕ざれば松吹風の音羽川あたりも涼し山の下かけ

後西園寺入道

拾 遺 音羽川雪げの波も岩越て関のこなたに春はきにけり

定 家

続 古 時雨のみ音羽の里は近けれど都の人のことづてもなし

前左大臣